

I 17世紀に日本を訪れたケンペルに関して述べた次の文章を読んで、問1～問4に答えなさい。解答は、設問で指定された場合を除いて、すべて番号で解答用紙の〔解答欄 A〕の所定の欄に記入しなさい。

17世紀の日本には、A オランダ東インド会社の活動に付随してオランダ人以外の外国人も訪れた。その一人が博物学者であるエンゲルベルト＝ケンペルである。ドイツ出身のケンペルは、1683年にスウェーデンの使節団に書記官として参加し、B ロシアおよびイラン（ペルシア）を訪れた。イランでオランダ東インド会社の医師となったケンペルは、さらに旅をつづけ、インドを経由してバタヴィアに到着した。そこで、C 長崎のオランダ商館付きの医師として採用され、1690年に来日し、約2年間滞在した。ケンペルは、滞在中に2度江戸参府をおこない、道中で見聞きしたことや調べたことなどを記録した。江戸では、徳川綱吉にも謁見している。ケンペル没後に出版された『日本誌』は、D ヨーロッパ諸国に日本の歴史や文化を紹介する役割を担った。また、ケンペルの著作はヨーロッパの様々な言語に訳されただけではなく、日本語にも訳され紹介された。志筑忠雄がケンペルの著作を訳し、日本が諸外国との関係を閉ざしている状態に「鎖国」という訳語をあてたことはよく知られている。

問1 下線部 A に関連して、次の文章を読んで、以下の（1）～（3）に答えなさい。

1602年に設立されたオランダ東インド会社はアジアにおいて広範な貿易ネットワークを築いただけではなく、ジャワ島を拠点に領土支配も進めた。その後、同社は解散したが、19世紀前半には α オランダ本国による植民地支配が進んだ。オランダの支配地域は拡大し、のちの β インドネシアに相当する地域が植民地支配下におかれた。

（1）下線部 α に関連して、ジャワ島では1830年に東インド総督ファン＝デン＝ボスによって政府（強制）栽培制度が導入されると、オランダに多大な利益がもたらされた。この制度の特徴および、この制度がオランダに利益をもたらした仕組みを、栽培の対象となった主な作物名に触れつつ、〔解答欄 B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

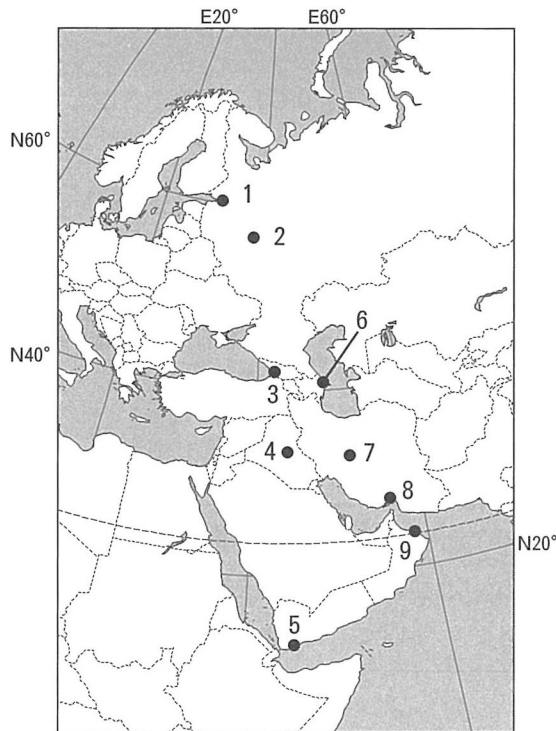
（2）下線部 β に関連して、1967年に、インドネシアを含む東南アジア5カ国が加盟する ASEAN（東南アジア諸国連合）が発足した。インドネシアが発足当時から加盟した背景にはインドネシアにおける政変があった。その政変とインドネシアの ASEAN 加盟との関係について、〔解答欄 B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

（3）下線部 β に関連して、次の文章中の（a）、（b）に入る語を、〔解答欄 B〕の所定の欄に記入しなさい。

（ a ）で「カーネーション革命」によって長期の軍事政権が倒れると、（ a ）の植民地である（ b ）でも独立運動が活発になった。そうした中、インドネシアが（ b ）に侵攻し、併合した。その後、独立の是非を問う住民投票と国際連合の暫定統治を経て、（ b ）は（ b ）民主共和国として独立した。

問2 下線部Bに関連して、次の文章中の(ア)～(ウ)および下線部αの場所として最も適切なものを、下の地図中の1～9の中からそれぞれ選びなさい。(重複使用不可)

1683年にスウェーデンを発ったケンペルは、ロシアの首都(ア)でピョートル1世に謁見したのち、イランに向かった。イランに入り、待機している間に訪れた(イ)の近郊で、ケンペルは噴出する原油を見ている。翌1684年に、ケンペルは、アッバース1世が建設した新首都(ウ)に到着し、使節としての任務を果たした。(ウ)にしばらく滞在したのち、ケンペルはスウェーデンには戻らず、イランの主要貿易港α バンドレ=アッバースに移動した。



備考：国境線は現在のもの。

問3 下線部Cに関連して、東アジアの国際関係における次の1～5の出来事を、年代の古い順に並べ替え、その番号を左から順に記入しなさい。

1. 江戸幕府がポルトガル船の来航を禁止した。
2. 鄭成功が台湾をオランダから奪取した。
3. 豊臣秀吉が朝鮮出兵をおこなった。
4. 平戸のオランダ商館が長崎の出島に移された。
5. 琉球が薩摩の島津氏の支配下に入った。

問4 下線部Dに関連して、ケンペル同様、日本に関する書物を残した人物としてフランソワ＝カロンがいる。カロンに関する次の文章を読んで、以下の(1)～(4)に答えなさい。

オランダ東インド会社に雇われて1619年来日し、商館長もつとめたカロンは、約20年間日本に滞在した。その経験は『日本大王国志』として残されている。そのカロンは、ルイ14世の治世にフランス東インド会社が再建されると、今度は同社の理事として招かれた。こうして、カロンは、オランダのみならずフランスのアジア進出においても活躍した。

フランスはインドにおいた拠点を中心にアジアにおける貿易活動を展開したが、α イギリスとの断続的な戦いにおいて18世紀後半には劣勢におちいり、インドでは植民地支配を拡大することはできなかった。しかし、19世紀後半になると、β インドシナを植民地支配下においた。

- (1) 下線部αに関連して、イギリスがフランスよりも有利に戦争を遂行できた理由の1つに、戦費調達的能力があり、18世紀のイギリス政府は多額の戦費を調達することができた。それを可能にした方法について、その政治的背景に触れつつ、〔解答欄B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。
- (2) 下線部βに関連して、次の資料1～3はフランスのインドシナ進出に関する条約の一部を日本語に訳したものである(必要に応じて表現を改めた)。資料1～3を、調印された時期の古い順に並べ替え、その番号を左から順に記入しなさい。

1

第一条 安南国はフランスの保護国たることを承認し、(中略)それを受け入れる。すなわち、フランスは、清朝をふくむあらゆる国との外交関係を、安南政府とともに統制するが、安南政府はただフランスの仲介によってのみ、前述の国々と外交上、通ずることを許される。

(注) 安南：ベトナム

2

第二条 清朝は、フランスが企図するいかなる和平への働きかけをも妨げず、現在また将来にわたって、フランスと安南国との間で直接成立した、あるいは今後成立するであろう条約、協約、そして協定を尊重すると約定する。

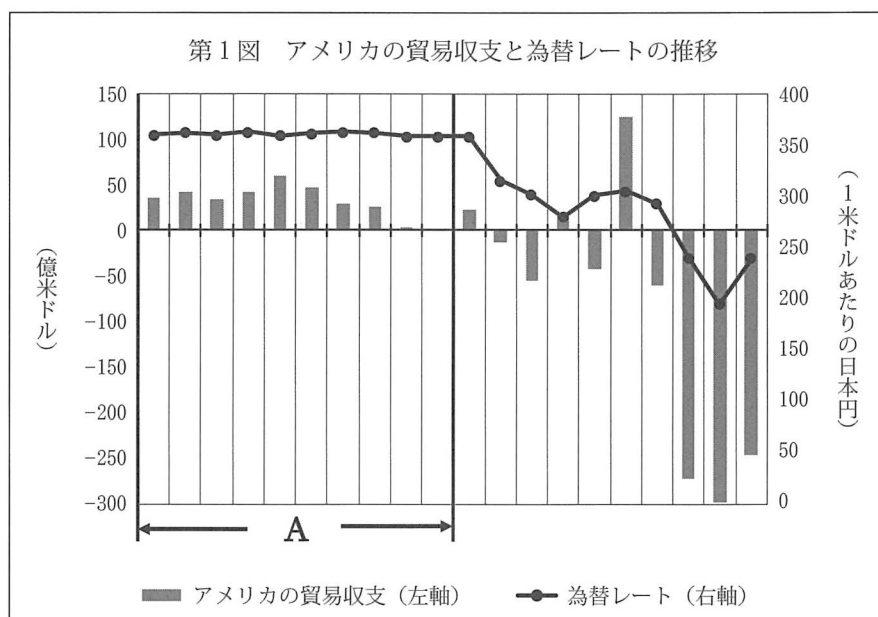
3

第二条 フランスおよびスペイン両国の臣民は安南国において、キリスト教を信仰することを許され(後略)
第三条 ビエンホア、ザーディン、ディントウオン(ミトー)全三省(中略)の主権は、本条約をもって、フランス人民の皇帝陛下に全面的に移譲される。

(資料出所はいずれも省略する。)

(3) 下線部βに関連して、インドシナ戦争の停戦に関してジュネーブで開催された会議には、インドシナの4つの政府が参加した。この4つのうちカンボジアとラオスを除く2つの政府とは何か。それぞれが樹立された政治的背景に触れつつ、〔解答欄 B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

(4) 下線部βに関連して、第二次世界大戦後のインドシナではフランスの植民地支配が終焉し、その後アメリカの影響力が拡大した。次の図は、20世紀後半の、ある20年間におけるアメリカの貿易収支（左軸）と為替レート（右軸）の推移を示している。図中のAの時期に起こった出来事を、下の1～5の中からすべて選び、その番号を〔解答欄 B〕の所定の欄に記入しなさい。（順不同）



備考：横軸の目盛りは1年の区切りを指す。為替レートは12月末のもの。

〔資料出所〕アメリカの貿易収支は U.S. Census Bureau, Economic Indicator Division より、
 為替レートは『日本銀行百年史（資料編）』より作成。

1. アメリカ軍が北爆を開始した。
2. アメリカ軍が南ベトナムから撤退した。
3. 中越戦争が起きた。
4. ニクソンが訪中し、毛沢東と会談した。
5. パリでベトナム和平会談がはじまった。

II イエズス会の歴史に関して述べた次の文章を読んで、問5～問8に答えなさい。解答は、設問で指定された場合を除いて、すべて番号で解答用紙の〔解答欄A〕の所定の欄に記入しなさい。

16世紀初頭、のちにプロテスタントと総称される諸派の登場によって Aカトリック世界の一体性は大きく損なわれた。時を同じくして、カトリック教会の内部でも自己改革の機運が高まったが、そこで大きな役目を果たしたのが1534年に設立されたイエズス会である。

イエズス会は Bスペイン・ポルトガルの海外進出と連携して積極的な布教活動を展開し、ヨーロッパの外部におけるキリスト教はカトリックが大多数を占めることとなった。このような活動を支えたのが同会の教育事業である。Cイエズス会の学院は世界各地に設立され、時代を牽引する知性を数多く輩出した。

他方で、イエズス会の思想や布教方針は、プロテスタントのみならず、カトリックの間でも批判や反発を絶えず引き起こした。そのうえ、ヨーロッパで教会と国家権力の分離が進む中、かたくなに教皇至上主義を掲げる同会に対し、諸王室は弾圧をくわえた。そうした中、カトリック世界の足並みの乱れを懸念したローマ教皇は、1773年に同会に解散を命じた。

しかし、カトリック世界は間もなく、フランスに端を発する混乱に巻き込まれてゆく。Dルイ16世が招集した三部会が紛糾し、つづいて誕生した革命政府はカトリック教会に敵対的な態度で臨んだ。その後、権力をにぎったナポレオン＝ボナパルトも、ローマ教皇との間で妥協と対立をくりかえし、宗教的混乱が広がった。ナポレオンの帝国崩壊後、ローマ教皇はその宗教的混乱を收拾するために、再びイエズス会の力に頼るべく、同会を復興することを決めた。

問5 下線部Aに関連して、次の文章中の(a)、(b)に入る地名を、下の1～9の中からそれぞれ選びなさい。(重複使用不可)

カトリック世界の一体性は、中世末にも大きく揺らいでいる。14世紀初頭に教皇庁は (a) に移されたが、およそ70年を経てローマに戻った後も複数の教皇が並びたつ混乱がつづいた。この間に、聖書の英訳をこころみたウィクリフや、彼に共鳴したベーメンの神学者フスなど、各地で教会の改革を求める声があがった。これに対し、神聖ローマ皇帝の求めで (b) で開かれた公会議では、ウィクリフとフスはともに異端とされた。くわえて、新教皇が選出され、教会の分裂状態にも終止符が打たれた。

1. アヴィニヨン 2. アナーニ 3. ウィーン 4. クラクフ 5. クリュニー
6. コルドバ 7. コンスタンツ 8. トリエント 9. プラハ

問6 下線部Bに関連して、次の資料a、bはスペインの進出先に関する記録の日本語訳からの抜粋である(必要に応じて表現を改めた)。これを読んで、以下の(1)、(2)に答えなさい。

a

(ア)を拠点として、この大きな島の他の諸州及び周辺の諸島の平定が続けられて行ったが(中略)州の首府、港、建設された市や町の住民は、その他特別の αエンコミエンダと共に国王の所有とされ、色々の必要性や王室金庫の経費〔の捻出〕にそなえられた。そして統治の政務と原住民の改宗は、必要な形で行なわれており、毎年船団が用意されてヌエバ・エスパニャ〔メキシコ〕へ赴き定期的な援助物資を積んで帰って来る(後略)

(注)〔 〕内は訳者による注である。

b

この（イ）ほど高貴な美点を持った形の都はない。この都市はインカの帝国の首都であり、王たちの玉座だったのである。それだけでなく、〔こと比べれば〕インディアスの他の諸地方は、ただ人が住んでいるだけ、というにすぎない。かりに集落があったとしても、褒めるに値するような文明も秩序も計画性も存在しないのである。

(注)〔 〕内は訳者による注である。
(資料出所はすべて省略する。)

(1) 資料a中の(ア)、資料b中の(イ)に入る地名を、次の1～9の中からそれぞれ選びなさい。(重複使用不可)

1. アカプルコ 2. アモイ 3. カリカット 4. クスコ 5. ゴア 6. パナマ
7. ポトシ 8. マカオ 9. マニラ

(2) 資料a中の波線部αに関連して、エンコミエンダとはどのような制度か。〔解答欄B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

問7 下線部Cに関連して、次の資料は、ローマのイエズス会学院で教鞭をとったスペイン人イエズス会士ファン＝デ＝マリアナの著作の一部を日本語に訳したものである(必要に応じて表現を改めた)。これを読んで、以下の(1)、(2)に答えなさい。

たとえどんなに強力な君主であれ、(中略)人々の怒りが支配者の息の根を止めることを示す事例は過去にも現在にも数多く挙げられる。嘆かわしくも際立ったこの種の事例が、最近フランスの王侯の間で発生した。この事例は、(中略)民の心を平穏に保つことがどれほど重要かを示している。α フランス王アンリ3世は、ある修道士に(中略)殺された。この不快だが忘れがたい出来事は、邪悪な行いが見逃されることは無いのだ、ということを君主に教える役目を果たしている。(中略)子がいなかったため、彼は義理の兄弟のヴァンドーム公アンリに彼の王国を譲ろうと準備していた。ヴァンドーム公は幼い頃より腐敗した宗教思想に汚染され、同時にローマ教皇に厳しく非難されて継承権を奪われていたにもかかわらずである。とはいえ、今やβ ヴァンドーム公は改宗し、最も敬虔なフランス王として讃えられる人物になっている。

(資料出所は省略する。)

(1) 資料中の波線部αの事件は、当時のフランスが直面していた宗教問題を背景としていた。この宗教問題について、フランス国内の政治事情に触れつつ、〔解答欄B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

(2) 資料中の波線部βに関連して、この王がフランスの宗教問題に関してとった政策について、〔解答欄B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

問8 下線部Dに関連して、三部会とは何かを明記したうえで、ルイ16世が全国三部会を招集してから、三部会の議員の一部が国民議会という名称の採用を宣言するにいたるまでの経緯を、〔解答欄B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

Ⅲ メセナに関して述べた次の文章を読んで、問9～問12に答えなさい。解答は、設問で指定された場合を除いて、すべて番号で解答用紙の〔解答欄 A〕の所定の欄に記入しなさい。

古代ローマ皇帝アウグストゥスにつかえた政治家マエケナスは、ウェルギリウスやホラチウスといった詩人を庇護した。このマエケナスの名にちなみ、芸術家を支援する活動のことを、のちに「メセナ」と呼ぶようになった。たとえば A ルネサンス期のフィレンツェでは、メディチ家のもと、数多くの芸術家が活躍した。絶対王政期のフランスでは、ルイ14世の時代に、芸術を組織的に振興した。フランスに限らず、B バロック音楽の作曲家たちは、教会や宮廷に職を得て活動した。19世紀になると、君主や教会によるメセナに代わって、C 資産家による芸術家支援がおこなわれた。ただし芸術家のなかにはこれを脱しようとする風潮もあった。

現代では、「メセナ」という語は、とりわけ企業による芸術文化支援活動に対してもちいられる。企業メセナによる文化プログラムは、2021年に東京で開かれた D オリンピック・パラリンピック競技大会に際しても開催された。

問9 下線部 A に関連して、メディチ家につかえた画家、建築家であるヴァザーリは、イタリアの芸術家たちの伝記『芸術家列伝』を著した。次の資料 a～c はその日本語訳からの抜粋であり、それぞれある芸術家の業績について述べたものである（必要に応じて表現を改めた）。資料 a～c で述べられている芸術家が制作した作品を、下の1～4の中からそれぞれから選びなさい。（重複使用不可）

a

さてこの審判図が公開されるや、それは、かつてそこで制作したことのある第一級の芸術家たちに立ち勝っているばかりか、〔システーナ〕天井画にさえ勝っていることを証したのであった。その天井画は、かつて彼が大いに賞揚されたものだが、彼はそれすら越えようとしたのである。つまり截然とそれに立ち勝ることで、自己をも越えたのである。彼はそれら審判の日々の恐怖を思い描き、正しく生きなかつた人の大いなる罪のために、主の受難を描いたのであった。

(注)〔 〕内は訳者による注である。

b

ミラノにおいて彼はサンタ＝マリーア＝デッレ＝グラーツィエ寺の聖ドミニコ派宗団のためにこの絵を描いたが（中略）そこで構想した、誰が主を裏切るであろうか知りたがっている使徒たちを襲った不安と危惧の念の表現に見事に成功した。それゆえに使徒たちの顔には、愛、恐怖、怒り、さらにまたキリストの心を理解することのできぬ悲しみが宿っている。これらに劣らずばらしいのは、対するユダの頑な態度、憎悪、裏切りの姿である。その上、作品のどの部分においても信じられぬほどの丹念さで描かれ、テーブルクロストナドの布の質にいたるまで描きこんでおり、本物のリンネル布でさえこれ以上本物らしくは見えないようであった。

c

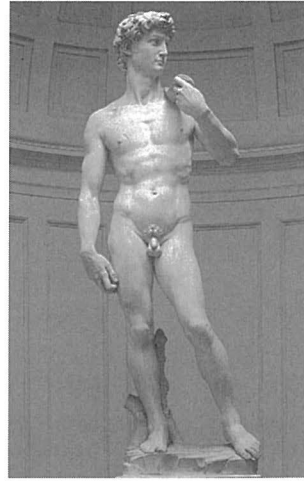
メディチ家の館では、ロレンツォ＝ヴェッキオ豪華王のためにたくさんの仕事をした（中略）。フィレンツェ市中のさまざまな邸のために自分の手で円い絵を作り、また裸の婦人像もかなりたくさん作ったが、そのなかの二枚の作品が今日でもコジモ公の別荘であるカステッロに伝わっている。その一枚は（中略）微風にはこぼれてヴィーナスがキューピッドたちとともに海辺へ着くところであり（中略）彼の手でまことに生き生きと優雅に描かれている。

〔資料出所〕 ジョルジョ＝ヴァザーリ（田中英道他訳）『芸術家列伝』

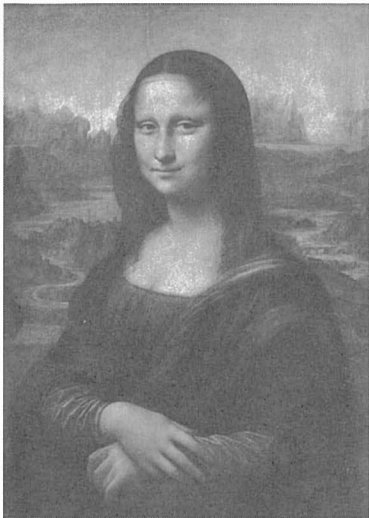
1



2



3



4



問10 下線部 B に関連して、次の文章を読んで、以下の (1), (2) に答えなさい。

バロック音楽を代表する二人の作曲家、バッハとヘンデルはともに1685年に生まれたが、その人生は対照的である。アイゼナハの音楽家一族に生まれたバッハは、ミュールハウゼン、ヴァイマル（ワイマール）、ケーテンなどのドイツ領邦国家内の宮廷や教会に職を得た。バッハは数多くのオルガン曲、宗教曲などを残し、1750年に α ライプツィヒで没した。死後、その作品はかえりみられることが少なかったものの、1829年にメンデルスゾーンの指揮で『マタイ受難曲』が演奏されたことによって再発見された。

一方ハレに生まれたヘンデルは、ドイツの他イタリアなどのヨーロッパ各地で活動した。その後、ロンドンに活動拠点を移し、イギリス王室礼拝堂付音楽家となった。ヘンデルは、オペラやオラトリオを中心に創作し名声を得た。不遇の時期も経験したが、 β アイルランド総督の依頼で作曲され、1742年にダブリンで初演された『メサイア』は絶賛され、彼の代表作となった。

(1) 下線部 α に関連して、ライプツィヒの聖ニコライ教会では、1980年代に民主化を求める運動がはじまった。1980年代から1990年代初頭にかけて起きた次の1～3の出来事を、年代の古い順に並べ替え、左から順に記入しなさい。

1. コメコンが解散した。
2. 東ドイツでホネカー書記長が退陣した。
3. ポーランドでワレサを中心に自主管理労働組合「連帯」が設立された。

(2) 下線部 β に関連して、次の a, b の出来事は、下の年表のどこに入れるのが適当か。年表中の空欄1～5の中からそれぞれ選びなさい。(重複使用不可)

- a. アイルランド自治法が成立した。
- b. アイルランド自由国が成立した。

1

ジョゼフ＝チェンバレンが植民相として保守党内閣に入閣した。

2

ダブリンでイースターの期間に蜂起が起き、パトリック＝ピアースら反乱指導者が処刑された。

3

ウェストミンスター憲章が成立した。

4

アイルランド共和国法が制定され、アイルランドは共和国であると宣言された。

5

問11 下線部 C に関連して、次の文章中の (a)～(d) に入る人名を、下の1～9の中からそれぞれ選びなさい。(重複使用不可)

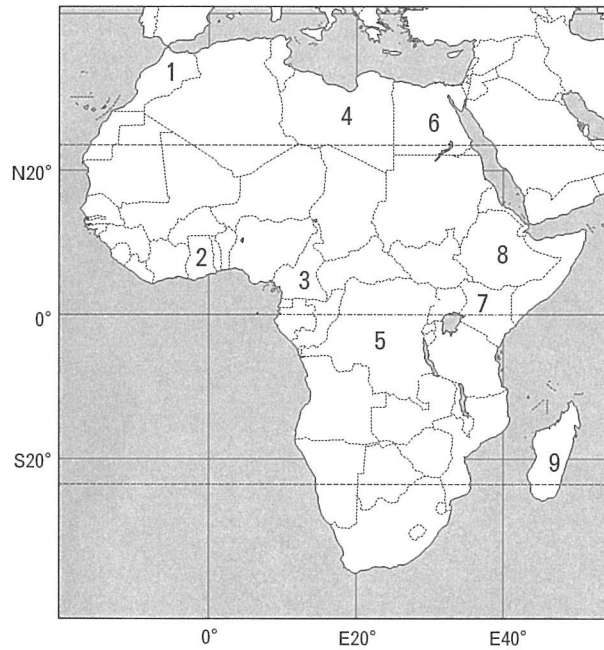
アメリカの資産家で、特に印象派の絵画を蒐集したルイーヌ＝ハヴマイヤーは、女性参政権論者としても活動した。女性参政権が認められるまでには、各国で紆余曲折があった。イギリスで1792年に『女性の権利の擁護』を発表し、女性参政権を主張したメアリ＝ウルストンクラフトは、その著作のなかで、『人間不平等起源論』を著した思想家 (a) の女性観を批判した。イギリス経験論の流れをくむ哲学者・経済学者である (b) は、イギリス下院議員として、1867年の選挙法改正に際し、女性参政権を認める修正案を提出するものの、否決された。アメリカでは、小説『アンクル＝トムの小屋』を発表し、奴隷制を批判した (c) が女性参政権運動にもかかわった。社会主義者のなかでは、『家族、私有財産および国家の起源』を1884年に刊行した (d) が、史的唯物論の立場から、女性の地位の変遷を分析した。

1. ヴォルテール
2. エンゲルス
3. ジョン＝ステュアート＝ミル
4. ストウ
5. ディケンズ
6. フーリエ
7. マルサス
8. モンテスキュー
9. ルソー

問12 下線部 D に関連して、次の文章を読んで、以下の (1) ~ (3) に答えなさい。

オリンピックやパラリンピックにおける選手団の活躍は、その出身地とともに人々の記憶に刻まれてきた。ローマ・東京・メキシコと、3つのオリンピックに出場したマラソン選手アベベは、 α エチオピア出身で、「はだしの王者」として知られた。1952年に β ヘルシンキで開かれたオリンピックには、イギリス領ゴールドコーストから初めて選手団が派遣された。その後、イギリス領ゴールドコーストは同じくイギリスの支配下にあったトーゴランドとともに、(a) 共和国となり、1960年にエンクルマ (ンクルマ) が大統領に就任した。2000年のシドニーオリンピックのサッカー競技で金メダルを獲得した (b) も、第一次世界大戦前にはドイツの植民地となっていた。

(1) 上の文章中の (a), (b) に入る国の位置を、次の地図中の 1~9 の中からそれぞれ選びなさい。(重複使用不可)



備考：国境線は現在のもの。

(2) 下線部 α に関連して、エチオピアが独立を失ったのは、アフリカの多くの地域の植民地化よりも後の時期であった。エチオピアが独立を失うにいたった経緯を、次の語をすべて用いて、〔解答欄 B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

アドワの戦い 国際連盟

(3) 下線部 β の都市で、1975年に、ヨーロッパ諸国33カ国とアメリカ、カナダを合わせた35カ国が参加した全欧安全保障協力会議が開催された。最終日に採択されたヘルシンキ宣言では、国家主権の尊重、国境の不可侵、人権と基本的諸自由の尊重などの十原則が掲げられた。この会議が開催された背景にある、1970年代前半のヨーロッパの国家間関係の変化について、〔解答欄 B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。